新潟
NIIGATA
niigata@mainichi.co.jp

新潟支局
〒951-8106
新潟市中央区東大畑通1番町643
025・222・1515 FAX025・222・1517
長岡支局
0258・32・0906 FAX0258・30・1065

広告は 025・222・1881

購読は 0120・468・012

中通	223・0844	牡丹山	273・7544
小新	267・0377	寺尾	269・2504
亀田	381・4485	黒埼南	362・6503
加茂	52・0349	三条南	46・8029
白根	372・3009	長岡大手	32・0749
新発田	23・2056	五泉	43・1110
新津	22・2015	両津	27・2345
佐和田	52・5021	小出	792・7711
十日町東部	752・2237	六日町	772・7881
塩沢	782・1550	上越東	528・4046
春日山	525・5613	上越木田	526・7291

ウチの場合は

森下裕美

(5606)

特別展で展示されている座席やポスター＝新潟市中央区の新潟港佐渡汽船ターミナルで

佐渡汽船「歴史と謎展」

出港までに解けるかな？

新潟港 航海日誌公開、クイズコーナーも

佐渡汽船は1日、新潟市中央区の新潟港ターミナル3階に特別展「佐渡汽船の歴史と謎展」をオープンした。初公開とみられる貴重な史料や航海日誌などが並び、同社100年の歴史を感じることができる。

今回展示されたのは、同社倉庫に長く保管されていた30～40年前の懐かしい観光ポスターや、現在就航中の高速船ジェットフォイル3隻（つばさ、ぎんが、すいせい）の各座席など。ポスターは社員でもあまり目にしたことがない貴重なものとされ、船によってデザインが異なる席に座りながら眺めることができる。

一般向けには、初公開とみられるおけさ丸（新潟港―両津港）の航海日誌も併せて展示した。2013年8月9日の航海を記録したもので、同日は新潟港と両津港の間を3往復しており、乗客の人数や当時の天候と波高、針路変更のタイミングなどが全て英文で書かれている。日誌の書き方のルールも紹介されている。

一方、入り口横には佐渡汽船に関する10問のクイズコーナーを設置した。船内でかつて使われた毛布や船員が着る服、改札で使用されるはさみなどにまつわる質問と回答が楽しめる。

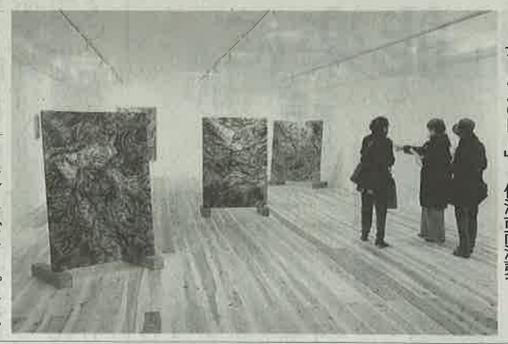
同社の担当者は「ターミナルで船の出発を待つ間に楽しんでもらえればうれしい。クイズは、船によく乗る方でも『へー』と思ってもらえるような内容です」と話す。

入場無料。4～11月が午前8時半～午後6時半、12～3月が午前10時～午後4時。【露木陽介】

佐渡に現代アートギャラリー

島内初

佐渡市両津地区の両津夷本町商店街に、空き店舗を利用した島内初の現代アートギャラリー「TAACHI（ターチ）」がオープンした。運営者は「芸術家の個展の開催やカフェの営業などを通して、アートを中心としたまちづくりの拠点をつくり上げていきたい」と話す。



商店街にオープンした現代アートギャラリー「TAACHI」＝佐渡市両津夷で

宮城・長男亡くした夫婦と三条の教諭 交流

「命のバトン一人一人に」

児童にオンラインで防災教育

東日本大震災11年

東日本大震災の津波で長男を亡くした宮城県大崎市の田村孝行さん(61)と妻弘美さん(59)が3月、三条市立月岡小の6年生にオンラインで授業をした。企画した霜崎大知教諭(27)は大学時代、ボランティアとして訪れた被災地で夫妻と出会った。教師になり「息子の話をすることが未来の命を救う」という2人からのバトンを児童につなげた。

2011年3月11日、長男健太さん＝当時(25)＝は勤務先の七十七銀行女川支店（宮城県女川町）にいた。湾から約100メートル。上司の指示で屋上にとどまり、津波にのまれた。

「誰も遺族にならない安全な社会になるように」。夫妻は日航ジャンボ機墜落事故の遺族らとも交流しながら、防災や教訓を伝えている。

支店跡近くには遺族が建てた慰霊碑がある。毎週末のようにそばに立ち、足を運ぶ人に話し掛けた。16年秋、足を止めた一人が霜崎さんだった。

◇

埼玉県出身の霜崎さんは、高校時代に起きた震災に衝撃を受け、大学ではボランティア団体に所属、何度も被災地を訪ねていた。適切に避難すれば助かったと信じ、教訓を語り継ぐ2人に胸を打たれ、交流が始まった。

新潟県の大学院に進み、夢だった教員となる。新潟も過去に地震や水害を経験。夫妻と共に児童に防災教育がしたいと考えた。

今年3月4日、新潟の教室と夫妻がオンラインでつながった。避難場所の確認や訓練の大切さを説いた孝行さん。弘美さんは家族写真を画面に映し、野球を愛した息子の様子や、就職後の週末に寮から帰ると、ワイシャツを洗って送り出した思い出を語った。

幸せな日常の尊さを通じ「私たちにできることは、命のバトンを一人一人に手渡すこと」と伝えた。原昇大君(12)は「災害は人ごとではないと思った」と感想を話した。

そして、震災11年の3月11日。2人はいつもの慰霊碑に手を合わせた。青空の下、供花が風にそよぐ。弘美さんは授業を経て「まいた種が芽吹いてきた」と感じた。石碑をさすって、健太さんに「これからも一緒に歩んでいこうね」と語り掛けた。

田村夫妻とオンラインでつなぎ、授業をする霜崎大知教諭＝三条市立月岡小で

3月11日、七十七銀行女川支店跡地近くの慰霊の花壇で、手を合わせる田村孝行さん（右）と弘美さん＝宮城県女川町で

平野歩夢に「特別賞」

4/5 M県

県民栄誉賞に新設へ

北京冬季オリンピック・スノーボード男子ハーフパイプで優勝し金メダルを獲得した村上市出身の平野歩夢(23)の功績をたたえ、県は県民栄誉賞に「特別賞」を新設し、贈呈することを決めた。花角英世知事が3月30日の定例記者会見で明らかにした。

平野は8年前のソチ冬季五輪の同種目で銀メダルを獲得。その際、県は県民栄誉賞を贈呈しており、花角知事は「すでに差し上げたものをもう一回というわけにはいかないので、特別賞を創設した」と説明。平野の五輪3大会連続のメダル獲得を「県民、国民に与えた感動は大きなものがある」とたたえた。

また、北京五輪のスノーボード女子ハーフパイプで銅メダルを獲得した妙高市出身の冨田せな(22)に、県民栄誉賞を贈呈することも発表。このほか、せなの妹で同種目5位入賞の冨田るき(20)と、平野の弟でウインタースポーツの祭典・Xゲームで3位となった平野

金メダルを手に写真撮影に応じる平野歩夢＝中国・張家口で2月12日、宮間俊樹撮影